

理事会の動き

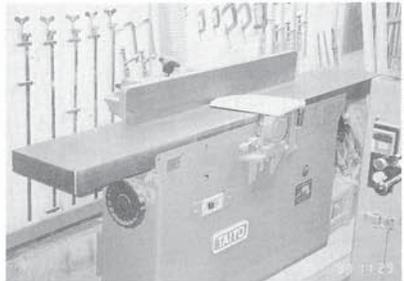
◆第100回理事会報告

平成5年12月4日(土)に第100回素心会理事会在、藤沢駅南口の「魚万会館」にて開かれました。
7名の理事が出席し、次の通り審議・決定されました。
(一)平成5年度補正予算について、法人・施設・ホームのそれぞれの会計とも、原案通り承認されました。
(二)報告事項として、施設運営の現状について田代施設長より報告がありました。また、平成4年度の事業について監事の方より監査の報告がありました。

中々おめでとうおめでとう
(財)中央競馬社会福祉財団 馬主さん
の寄附
による財団より、木工作业に必要な

「おんがくみんがさあつた。」
心よりお礼を申し上げます。

▲木作業場に据付られた新しい「自動カンナ盤」



な「自動カンナ盤及び集塵機設備一式」の整備事業に対し、助成金をいただきました。
総額三百六十三万五千九百円でそのうち二百八十万円の助成を受けました。

訃報

故宮崎幸夫さん(42)

7月30日、それは突然の事でした。休みだった私は、電話をもらい頭の中が真っ白になった。もうそれから後は流れの中にいた。7ヶ月経った今、想い出すのは明るい宮崎さんの笑顔で、正直なところ今だにホームに帰ってくる様な気さえする。
現実には充分に受け止めたはず。今は、彼の安らかな冥福を祈ります。
〈実習班 磯崎〉



故守永義輔理事



当法人理事守永義輔氏(89)は、去年10月15日、肺ガンのため逝去されました。

編集後記

★出勤途中畑の中を動く白いものを見つけた。かなり大きな物体だ。それは「コケッコッコ」と鳴いていた。ほとんど毎日の様に見かける。会わない日はなんとなく淋しくなる。今日は少し離れたカリフラワーの畑でエをつついていて。暫く顔を見なかつたので安心した。今年が良い年だ。(N)

守永(前理事長)さん ありがとうございます。

二十一年の間、私達の「父」であり続けたあなたに心から「お疲れさまでした」と申し上げます。
経済界より福祉の現場に身を置いた時、あなたはどんな想いだったのでしょうか。
いつでもハラハラドキドキの毎日であったことと思います。
でも、いつでも私達を大きく暖かく見守って下さいました。
今さらのように、あなたに甘え身をゆだねていたことが思えてなりません。
素心学院にとっても、私にとってもあなたは木であり、その下で大勢の人々が身を守り、安らいでいた。さようなら。
〈施設長 田代〉

只今、休肝中!!
★お腹が大きくなった。太った理由ではない。新しい生命の誕生という程美しくはない。お腹の中で動く様子は「エイリアン」そのものだ。夢の中ではどうとう「エイリアン」が私のお腹から頭をつき出した。必死にさすってへこませようとする私は「母」になりきれないのか!?同居中の「エイリアン」。「美人になるのよ」とお腹をさする毎日である。(Y)



No.23

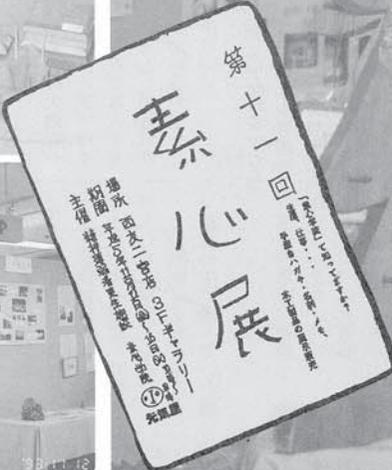
発行/社会福祉法人素心会 素心学院
責任者/田代哲郎
〒259-01 神奈川県中部大磯町虫窪24番地
TEL.0463-71-1255番

●特集 地域における施設の役割(過去・現在・これから)

第11回 11/12/16

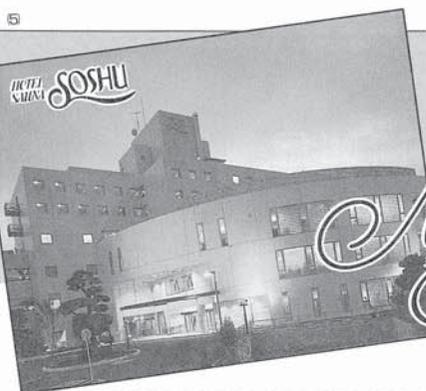
素心展開催

素心展も回を重ねること11回目。場所を平塚から再び「西友・二宮店」に移しての開催。
展示内容は、素心学院の紹介と併せて紙漉き製品・木工製品等の販売。
期間中の入場者数は約三四〇人。



虫窪24番地

▼今年、小学校に入った息子が、先日「生活科」の宿題で、家族に向けてのいくつかの質問を手紙に書いて持ってきた。
▼妹には、「どうしていもうとは、ぶつとすぐにないちゃうの?」。
何もしないのに、突然ぶたれたら泣くに決まっているタロが!
母親には、「どうして、おかあさんはりょうりをつくるのがじょうずなの?」とききた。…… なかなか、今から気がつかつてるなコイツは。
▼そして、いよいよ父親に向けての質問だ。なにが書いてあるのか。どうしてカッコイイのとか、毎日仕事は何してるのとか……。どれと、質問は……「どうだ?」
おとうさんはくさいの?。チョコ、チョコト待てよ、何だよこれは。確かに、最近、顔も油ぎってきたかもしれない。時々、朝は二日酔いで酒の匂いがしみついてることもあるかもしれない。でも、少しこれは、ずいぶんストレートじゃないのか。エー。
▼とりあえず、これにはこう答えておこう。いろんな香りを漂よわせて、一人前の男になるんだ。少しは存在感あるだろ、この香り……「な」。(清潔第一の男)



SO SHU

虫窪24番館

ちょっぴり、大人のムードを求めて…… 1993.12.19

素心のメリークリスマス



Merry Christmas

今までの「素心のクリスマス」は、2階ホールでのパーティーと食堂でのディナーといった形式でした。せつかくのクリスマスなんだから、いっそどこかのホールを借りてパーティーをしてみたいは……

ということで 1年目は 平塚プレジール
2年目は 大磯 滄浪閣パンケットホール
そして、今年は…… 秦野 SOSHU・ロイヤルホール をお借りして……

当日は、学院・生活ホーム合わせて総勢140名。マイクロバスに分乗してパーティー会場に到着。いつもの作業服を脱ぎ捨てて、今日はスーツにネクタイ、ワンピースと一人一人おしゃれて、気分はまさにクリスマス!!



今夜のパーティー会場は 秦野のホールのロビー
いっしょに楽しませ!!
お楽しみプレゼント



バンドは、「ブルーマウンテンストリーターズ」!!

Xmas Party

- プログラム
- ♪ キャンドル サービス
 - ♪ 乾 杯
 - ♪ 食 事
 - ♪ マジックショー
 - ♪ 聖歌隊? 登場
 - ♪ ダンスタイム(バンド演奏)
 - ♪ ソングタイム

ホールの 40人編
クリスマスパーティー



突然のミュージシャン登場!!
会場大いに盛り上がる。



司会は▼菅野さん(厨房)
佐俣さん(アクト班)



Coffee time in Soshin

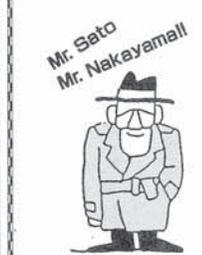
新役員紹介
新しく素心会の役員に就任された方を、ご紹介いたします。

理事 佐藤 昭二氏
横浜市在住 (S22.8生)
日本大学文学部心理学卒業 神奈川県中央児童相談所着任その後県下各児相を歴任

理事 中山 昇氏
(S8.12生)
中央大学法学部法律学科卒業 法務省神奈川少年院に法務教官として着任その後神奈川県横須賀児童相談所に勤務。県内の児童相談

し、長沢学園(園長)をS58年に退職、同年淑徳大学社会学部社会学部教授に就任。現在に至る。

所・県立施設を歴任し、平成元年に三浦しらとり園(園長)を退職。同年社会福祉法人かながわ共同会素心会に勤務。現在センター長兼兼産施設施設長。



★10月17日
SOSHINPIC'93 中止
雨があがったグラウンドで「パン喰い競争」だけは行なった。できれば毎日やってもらいたい。



到着まで食べないでネ!

思う壺
甘い物に目がないのは女性と思っていたら、今すぐ考えを改めて下さい。世の中の男性は、案外あのコッテリとしたケーキを食べたがっているんです。
〈指導庶務〉坂本秋枝

お・菓・子・な・話
980円 食べ放題

秋風が快い穏やかな昼下がりが、場所は某ホテルの超高級(?)レストラン。
フォーマルな装いが、あたりを一段と華やかに演出する。紳士、淑女四人が織りなす人生劇場。
「いらっしやいませ」の声とともにケーキ皿の上に六コ程のケーキが並べられた。
「感激!!」
「マイベイス、マイベイス」と心の中で叫びながらも、既に手は規則正しいリズムをきざんでいる。前の二人の紳士はフォーク無用の手づかみ。とにかく笑顔で幸福そうである。そんな二人を前に、私もひたすら食べた。私達淑女二人は何と言ってもベテラン(?)。前回の経験を生かすべく、一コでも余分に食べなければ、と使命感

に燃えていた。同僚の花嫁姿に「満足、満足」と帰途に付くはずであった。それなのに「この食欲は何だ」と哲学的的思考(?)が頭の中を駆けめぐった瞬間「負けた!!」もう空気も入らない「完敗」である。気が付くと他の三人も我慢会の参加者になっていた。人生なんて、こんなものさ。来年も又来よう」
帰りの車中「何か物足りないね」「カツ丼ならいい」「モツなべが食べたい」と立ち直りの早い紳士、淑女であった。
幸福な時を過ぎ、試練に耐え、また挑戦する。こんな人生もいいもんだと思いつつ、嫁ぐ友の幸福を祈る。

素心歳時記
★9月23日 30日
心創展(於平塚梅屋)
★10月3日
愛護職員ソフトボール大会
県大会優勝!!
勝者インタビュー
「苦笑い4年!」ぶっつけ本番の試合では、我も我もと「お立ち」をめざして大振り攻勢。こと素人集団が、今年は着実に成長。チームワークの勝利でした。
★11月21日
愛護職員バレーボール大会
県ベスト8入賞!!
残念ながらソフトボールと共に優勝とはいきませんでした。来年に期待します。ファイト!!
★12月19日
クリスマスパーティー
(於SOSHU)
★12月27日
もちつき



パン喰い競争 堂々たる喰いっぷりデスネ



特別員報告
社会福祉法人 かながわ共同会
新施設の準備室より
萩原勝己

県央方面精神薄弱者施設は、県立津久井やまゆり園の再整備に伴い計画され、厚木市上荻野に現在建設中です。中高齢者と医療的サポートの必要とされる知的障害者の施設で、居室は2人部屋が個室、浴室は20人に1つ、食堂は40人に1カ所とゆとりを持って設計されています。
また、利用者が安心してくらするよう内科、精神科、歯科の診療所も設置されます。
定員が百二十名と少し大きな施設ですが、①利用者中心の援助。②利用者の個別ニーズに即応した援助。③自己選択、自己決定のできる環境。④自由とプライバシーの守られる環境を基本理念に掲げ一人一人の豊かな暮らしを目指します。具体的には、(ア)質の高い援助を目指し職員倫理綱領の作成。(イ)利用者の個別ニーズに対するためのパートタイム・ボランティアの積極的な導入。育成。(ウ)充実した休日と週末のためにホスト・ファミリー(休日里親制度)の創立。(エ)職員の専門性向上のための研修システム確立。(オ)職員が心身ともに健康で、積極的に援助できるようなサポートシステムの導入。(カ)適切なサービスや援助が行われているかを評価、検証するたりの第三者機関(一般市民学識経験者)の設置等

父兄PENルー
今年73歳の千寿子さんは学院内の最高齢者! いつも小走りにちょこちょこ元気に働いています。
うちのあちゃん(アクス班) 金塚てる代(義姉)

夏のある日、夫の妹千寿子さんは、夫とその弟に連れられて練馬の自宅に落ち着いた。色白で小肥り、ひつつめ髪をした人だった。私は昭和二十五年の暮に結婚した。年も改まり、わずか半年の間に夫の祖母を、疎開先の柏崎で失い五ヶ月

後に舅までも失った。舅は、正月に息子の家を安住の地と決めて上京した。東の間の安息。祖母が亡くなったのを機に、継母と別居した。早い時期に子守りに出ていた妹を引き取るのを楽しみにしていた舅。千寿子を頼むと言いつつ、十六歳で亡くなった。「千寿子は自分のたった一人の血を分けた妹だ。見放すわけにはゆかぬ。幼い時母親を失った兄弟は、強い絆で結ばれ、特に弟は豪気な夫とはウマが合っていた。どうにもやり切れない妹との確執。妹は複雑な家庭環境のため気が荒んでいた。やがて私共の長女が誕生した。子供好きな妹は赤ちゃんと気をまぎらさず、少しずつ落ち着いてきた。又、近所に友人が出来たのも幸いして生来のやさしさと笑顔が戻ってきた。三人の子供達も「千寿子さん、〜」と親しみ、宿命とも言える叔母ちゃんが居たからこそ、優しく労ることを知ってくれた。長女が高校受験の頃、弟の紹介で素心にお世話になった。親身も及ばぬご指導と心遣いに感謝の念で一杯でございます。以来、院生の中で一番のおばあちゃんになった。少しも命令を感じさせない身のこなし、何よりも気の若くのが取りえ。先日の保護者会のやりにも、短めのキュロツ

トスカートをはき、膝小僧を出していた。時々自宅のある練馬へ帰って来る。家に居ると一日中雑布を持ち、小まめに拭き掃除をしてくれる。でも時にはこんな事も……。玄関にきちんと揃えられた靴は、ご丁寧に左右、並べ替えてある。奇妙な靴やサンダルを見るたびに、ああ、妹が帰宅しているんだと安心もする。妹の大変身。学院でパーマをかけ、髪を栗色に染めて頂いた。いつもは、自然にカールした白髪にヘアバンドをしたのに、「はて、どこの人かな」と見間違えようと思ったカーリーヘア。妹だけはご機嫌で「可愛いよ、よく似合っている」と先生方が誉めて下さったと喜んでた。以後、髪を染めるのは夫の仕事になった。久しぶりの外出。先を行く夫。妹は小走りに歩いている。早くいらっしやいと、時々振り返りながら私を手招きしている。いつの間にか夫は照れたように、それでもしつかりと妹の手を引いていた。年々、背はちぢまり、可愛いおばあちゃんになった。学院への送り迎えや何かと面倒を見てくれた弟が昨年九月に亡くなった。妹のために残念なことであった。